



片倉 勝己

奈良工業高等専門学校 学生主事

校舎地区からグラウンド越しに西の方を見れば、四季折々に美しい姿を見せる矢田丘陵の山並みが目前にせまり、東を臨めば若草山、春日山、花山、高円山、高峰山、龍王山、三輪山の順に奈良の歴史とともに歩んできた山々が順にならび、その背後に広大な大和高原が広がっている。南方はるか彼方を見渡すと、世界遺産にも指定されている紀伊山地が迫りくる様子も窺える。このような自然豊かな景観と、二つの世界遺産『法隆寺地域の仏教建造物』と『古都奈良の文化財』に挟まれた類まれな文化環境のなかに奈良高専のキャンパスがあります。

1300年以上前、奈良が日本の都としてシルクロードの終着地であった頃を想像してみましょう。平城京では、外国から思想、土産物、技術などの様々な文化を携えて訪問した外国の使節団や僧侶、帰国した遣唐使が異国の土産話に花を咲かせていたと思えます。私は歴史家ではありませんが、当時の奈良は、グローバル都市として世界の文化を吸収しながら、日本独自の文化の発祥地として栄えていたに違いありません。当時、奈良に住んでいた人はどのような思いでその様子を見ていたのでしょうか。興味は尽きません。奈良高専のキャンパスに立って、古都奈良を舞台に主人公として活躍する自分の姿を想像しながら、将来の夢を考えてみるのも良いのではないのでしょうか。

さて、高等教育機関のキャンパスというと、創造性溢れる学生が集って活気に溢れる文化学術ゾーンであり、その地域における『知』のシンボルでもあります。高等教育機関である奈良高専のキャンパスは、世界文化を吸収しながらも独自文化を築き上げてきた奈良にある『知』のシンボルのひとつということになります。

実際、これまでに8000名以上の学生が互いに切磋琢磨しながらこのキャンパスで学び、優れた人材として社会や産業界に旅立って様々な技術や知財を生み出し、長年を掛けて知のシンボルとしての礎を築いてきました。学生の皆さんは、人生で最も多感で物事を貪欲に吸収できる貴重な時期に、このキャンパスの主人公として奈良高専に在籍して学生生活を送れることを是非誇りに思ってください。

ところで、皆さんの先輩が積み上げてきた素晴らしいキャンパスを、より一層魅力あるものにするためには、本校で学ぶ学生の皆さんと教職員のコラボレーションによる魅力ある雰囲気作りが重要になります。私は、新年度最初の全校集会の際に、学生の皆さんに二つのお願いをしました。そのうちのひとつが『【一緒に世界に誇れる魅力あるキャンパス作り】をしましょう』ということでした。学生の皆さんの活躍や積極的な寄与がなければ、活気あるキャンパスは構築できないからです。そして、なによりも、学生の皆さんが知

的空間である奈良高専キャンパスの主人公として充実した学生生活を過ごす必要があるからです。そのためのポイントは、キャンパスの主人公である皆さんが、生徒でなく『学生』であることを自覚するところだと考えています。ただの学生ではなく、キャンパスの主人公として、『他人から尊敬される魅力ある学生』としての自覚です。

それでは、学生と呼ばれる理由を正しく理解しましょう。それは、高専が高等教育機関だからです。学生には自律と自己責任という言葉がつけます。他人の失敗を非難したり貶めたりする場合に自己責任という言葉を使用する人もいますが、この言葉は、けっして他人を貶めるために発するものではなく、自分自身に投げかける言葉です。自分の行動や言動に対して自分で責任をもつ覚悟と言えるでしょう。これを自分に都合よく解釈し、利己的な考えと置き換えて混同する人もいますが、それは誤った考えです。自己の行動が他人にどのような影響を与えるか、その影響の重大性を十分把握して他人を尊重した行動が要求されます。自律については、自分で調べてみてください。いずれも簡単なことではありませんが、視野を広げて、日々の心構えを変えることで修得できるはずですよ。

例えば、皆さんのなかには、海外の人に英語で奈良や日本文化を紹介した経験をもつ人がいると思います。奈良のことをあまりにも知らなさすぎて困ったり、恥ずかしい思いをしたりしたことはありませんか。技術者・研究者が自分の専門分野の知識を持っているのは当たり前のことですが、専門外のことを知らなくても構わないのでしょうか。特に、教養と呼ばれる部分です。貪欲に学び、多くのことを吸収し、物事の善悪を広い視野で判断し、そして新しい何か想像できる。一方で、自分とは異なる考え方や価値観を尊重できる。そんな学生を目指しませんか。最近、人と人の関わりの中で様々なトラブルが起こっています。その原因は、お互いの利害、意見の対立であったり、文化、常識の違いなどであったり様々です。しかし、誤解や行き違いなどのコミュニケーション不足によることもかなりあります。また、認識不足や偏見などは、コミュニケーションによって解決できる部分も多くあります。『他人から尊敬される魅力ある学生』を考える上で、ぜひ参考にしてください。

『新年度が始まる全校集会の日を新年度の志を立てる大切な日と捉え、目標をたて有言実行してください』ということもお願いしました。すでに半年以上が過ぎましたが、年度初めに誓った目標の進捗状況はいかがでしょう。まだ、目標が定まっていない人、あるいは目標自体を立てていない人はいませんか。

目標が定まらない人も遅くはありません。小さいことでも良いので、ぜひ、『魅力あるキャンパス作り』に貢献できる何かを考えてください。ひとつひとつは小さくても、1000名で取り組めば、大きな力になります。単純なことでは、挨拶を心がけても良いでしょう。挨拶という言葉は、「一挨拶」（いちあい いっさつ）という禅語に由来し、心を開いてお互いに接することを意味します。しかし、英語にも挨拶を意味する言葉があります。挨拶を交わすという言葉は、Exchange greetingsとなります。世界各国に挨拶という言葉が存在するのです。人と人の関係は、挨拶やGreetingを通じた心のふれあいからスタートします。お互いの気持ちを大切にするという習慣を身につけましょう。そこから、様々な世界が広がります。最近、本校では国際交流を積極的に進めていますので、海外から多くの学生が本校を訪ねたり、本校からも海外の学校を訪ねたりする機会が増えていきます。このようなときにも普段の挨拶習慣が役に立つはずですよ。

いろいろと書きました。皆さんが、奈良高専キャンパスのなかの主人公として、知の力を持った魅力ある真の学生に成長してくれることを期待します。

